



(塩出議員)

はじめに、社会的インパクト評価について、説明させていただきます。

内閣府ホームページによれば、「社会的インパクト評価とは、社会的インパクトを定量的・定性的に把握し、当該事業や活動について価値判断を加えること。ここで、社会的インパクトとは、短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の成果として生じた社会的、環境的なアウトカムをいいます。近年では、経済状況の変化を受けて、資金の出し手において、これまで以上に成果を求める動きが国際的な流れとなっており、社会的インパクト評価へのニーズが高まっています」とあります。

また、資料として概要をお示しした、社会的インパクト評価検討ワーキング・グループの報告である「社会的インパクト評価の推進に向けて」では、「公的部門における財政制約の高まりや、社会的課題の複雑化が進む中、民間の知恵や技術により、課題解決を図ろうとする流れがあり、非営利団体等との協働の取組や社会的インパクト投資が急速に拡大しています。その前提として、事業や活動の社会的な価値を可視化する必要性が認識され、『社会的インパクト評価』が急速に普及しつつあります。(中略) 我が国においては、世界に類を見ない急

速な人口減少・高齢化が進展する中、社会的課題がますます多様化・複雑化し、従来の行政中心の取組だけでは対応に限界がある」と指摘しています。

そこで質問します。例えば令和6年度食品ロス削減事業において、成果指標はフードバンクへの食品提供者数と愛称「食べもの余らせん隊」の登録店舗数の2項目。評価については、2つの目標に対する達成度です。確かに目標を設定し、目標に対する達成度を測り、達成のためにどのような施策が必要なのかを明らかにすることが現在の行政評価の在り方としては正しいと思います。しかしながら、そもそもこの事業の目的は食品ロス削減により、環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の実現にあります。行政評価としては、提供者数と店舗数の2つの目標達成が本来の事業目的達成にどれだけ貢献しているかをできる限り明らかにすることが重要です。現在の行政評価に社会的インパクト評価の考え方を取り入れ、より本来の事業目的の達成度を「見える化」させるべきと考えますが、如何でしょうか。

#### (行政経営企画課長)

本県の行政評価では、県民の皆様への説明責任や事業改善の観点から、事業の目的に照らし極力、収集のしやすい客観性を有するデータをもとに成果指標を設定し、進捗管理と公表を徹底しているところです。

社会的インパクト評価は、単に事業のコストと直接的な成果を見るだけでなく、社会や環境に与える中長期的な影響や多面的な価値を可視化しようとするものですが、行政評価への導入にあたっては、評価の対象とするインパクトの決定方法、データ収集の妥当性とコスト、評価基準設定の客観性など、課題を多く含んでいるものと認識しております。

#### (塩出議員)

この質問を行うきっかけは、北九州市でフードバンク事業を行っている団体

が、事業の効果を客観的に目に見える形にならないかとの問いかけが北九州市立大学へあり、同大学が社会的インパクト評価を社会的投資収益率（SROI）の手法を活用し、社会的価値を定量的に可視化し報告書を作成し、その事例を教えてくださいましたことにあります。なお、SROI（Social Return on Investment）とは、投資に対しどれだけの社会的価値が生まれたかを整理する考え方です。

具体的に申し上げますと、フードバンク事業の事業効果は、重量で表される食品ロス削減量、金額が基本の利用世帯の食費負担軽減額、人数の変化である、食生活の改善者数等を貨幣換算します。その合計がアウトカム（成果）です。この時に重要なのは、支援を受けた人や北九州市などのステークホルダーとアウトカム項目の選別です。この例では例えば食糧支援を受けた方は食費の削減、食生活充実によるQOLの向上、職員との交流による安心感の醸成、生活の安定による就労機会の増加、北九州市としては、医療費の削減、家庭の安定化による不登校支援にかかる費用の削減など、説得力のある直接間接の効果を洗い出すことが一つのポイントです。ちなみに、北九州市立大学環境技術研究所のチームが行った評価ではSROI値19.18、つまり投入した費用の19倍以上の便益、アウトカムが得られるとの結果でした。そこで質問です。手法は様々あると思いますし、この数値をどのように評価するかはさておき、この手法を活用し事業効果を「数値化」「見える化」することに対しての見解をお尋ねします。

#### （行政経営企画課長）

SROI（社会的投資収益率）は、従来のKPI（重要業績評価指標）等と比較して、事業がもたらす長期的な社会的・環境的価値を貨幣価値として換算することにより、広範かつ深く評価しようとする高次の評価手法である一方で、数値化された結果の客観性や妥当性をどのように担保し、誰がその評価を是とするのか、

といった課題があるものと認識しております。

#### (塩出議員)

このような手法を活用することにより、より効果的な事業を実施することにもつながると考えます。財政的な制約がある中、社会的課題が多様化、複雑化しています。その観点からも NPO 法人などの社会的資源を効果的に活用する必要があります。その時に投入資金と成果を「見える化」させることは、事業を外部人材に委託すべきか、だれに委託するのが効果的か、どれだけの資金を投入すべきか等の判断材料となります。また、受託された事業者も本来の事業目的が明確になり、事業の社会的貢献度合いを「見える化」することは大きなインセンティブとなります。他県から北九州市立大学へもこの手法を活用して事務事業について調査をして欲しいとの話が来ているそうです。そこで質問します。行政評価だけではなく新たな事業に取り組む際にも重要な判断材料となると考えますが、見解をお尋ねします。

#### (行政経営企画課長)

限られた行政資源の中で、社会的課題の解決に資する事業を効率的に進める上で、事業の効果を客観的に評価し、可視化することは重要な要素の一つです。ただし、評価の対象とするインパクトの決定方法、データ収集の妥当性とコスト、評価基準設定の客観性などに加え、新規事業の検討スケジュールとの調整等、多くの課題を含んでいるものと認識しております。

#### (塩出議員)

事業効果を「見える化」することは、県民への説明責任を果たす上からも有効です。是非、社会的インパクト評価の手法を積極的に事務事業の立案、改善、評価に活用してはどうかと考えます。すべての事務事業に当てはめることは困難ですが、例えば、次回の行政評価時に事業をピックアップし取り組んでみて

はどうでしょうか。また、行政の事務事業の評価に適合するような定型的な評価方法を、北九州大学と共同して研究してみてはどうでしょうか。見解をお尋ねします。

#### (行政経営企画課長)

委員ご指摘の社会的インパクト評価を行政評価に直接適用することは、先の答弁で申し上げた通り、その評価基準の合意形成の困難さや評価にかかる多大なコストなど、克服すべき課題が多いものと認識しています。

しかしながら、社会的インパクト評価の考え方の中には、成果指標の設定方法など、県民の皆様への説明責任や事業改善の観点から今後の行政評価の質の向上への示唆が多く含まれていることから、北九州市立大学の取組内容、他都道府県の先進事例や国の動向等、情報収集に努めてまいります。

#### (塩出議員)

最後にこの社会的インパクト評価に関する活用に関し、部長の見解をお尋ねします。

#### (総務部長)

私どもとしましては、行政評価は、県民の皆様への説明責任を果たし、事業改善を進めていく重要な取組であり、よりよい中身となるよう不断に改善していかなければならないものだと考えております。

そうした観点で、この社会的インパクト評価を見た時に、示唆となるものもある一方で、その実装にあたっては、課長が答弁したような課題も多くあるものと感じております。

社会的インパクト評価に関する情報収集を行いながら、今後も引き続き、県民の皆様になんげいただける「より質の高い行政評価」を目指してまいります。

#### (塩出議員)

課題は多いかと思いますが、客観的な根拠を示すことで、限られた予算の最適化や事業改善が可能となり、さらには県民の共感や民間資金を呼び込む「社会課題解決の羅針盤」としての役割を果たすと思います。ぜひ積極的に情報収集して頂けますようお願い申し上げます。